




令和2年2月19日(水)
 当院の研修委員会主催による、
 全職員対象の勉強会が当院3F
 会議室で行われました。
 能代山本医師会病院大学教養講座
 と称し、当院の医師が講師となり行い
 ます。
 今回は、院長の加藤Dr.が講師となり
 行いました。
 演題は
 「医療者のコミュニケーション」


医療者のコミュニケーションがなぜ重要か

- ・信頼関係がなければ治療は任せられない
- ・コミュニケーションがなければ信頼関係は生まれない



医療者の言葉・態度がもたらすもの

- ・不安を増長するもの
 首をかきげながらの検査
 ため息
 上から目線 心ない言葉
 勘違いして話す
- ・安心感につながるもの
 敬意を持って話す
 笑顔 優しいまなざし
 いたわりの言葉 「心配だったでしょう」



私がコミュニケーションで大切にしていること

- ・言葉はあらかじめ決めておくのではなく、相手との会話の中で相手の気持ちを慮って出てきた言葉にゆだねる。人に寄り添う対話の中で生まれた言葉にこそ人を癒す力があるのではないか。
- ・相手の気持ちはすぐに理解できるものではない。安易に「分かった」と言わない。一方で常に分かれようと努力すること。
- ・10人いれば10通りの対応方法を考える。対応方法をパターンの中にはめ込まない。その人の背景を知らずに患者さんと一緒に治療に取り組むことはできない。

話していることが、患者さんの立場になった時に上から目線になっていないか？自身の対応を自問自答する事が大切。
 優しく話しを聞く表情やしぐさが、信頼関係につながる。笑顔の大切さを理解すること。